

～ 転ばぬ向うの杖

七月二二日 木曜日

阪急芦屋川駅から川沿いを北上、高座の滝、ロックガーデン。岩場からの輻射熱で体力が奪われる。風吹岩にて六甲山頂へのルートを断念し、荒地山からの迂回ルートを選択する。

道すがら、枯れ枝を拾い、杖にする。杖をつくど、自然と足が前に出る。

荒地山の水場にて給水。昼食を取っていた老紳士曰く、一年を通じて水温が一五度に保たれているらしい。

東お多福からバスで有馬登山口。登山口には杖捨て箱があり、沢山の枝が置かれている。

九月一九日には有馬で杖捨て法があるようだ。ひとまず杖を捨てずにバスで芦屋川まで下山。

八月一三日 金曜日

阪急六甲駅よりバスで六甲ケーブル下駅。ケーブルに沿った直線的なルート。登山案内板に置いてあった杖を一本借りる。

道を譲ってもらった老人の杖は年期が入っている。

油コブシへの急勾配から三角点。蜂の巣を拾う。六甲山上駅に到着。

カンツリーハウス・ガーデンテラス・高山植物園を散策。高山植物園横の喫茶店にて、六甲山系の古地図をみつける。

六甲ケーブルで下山し、神戸中央図書館にて先ほどの古地図を複写。

九月一日 水曜日

新神戸駅を出発。布引の滝、布引貯水場を越えると茶屋がある。

天狗道を越えると人はまばらだ。トウエンテイクロスに入り、堤防を越える。

照葉樹林が続き、幹ばかりが目につく。森林植物園を越えると桜谷合点。

栗を拾っている男性に出会う。男性曰く、まだ緑色だが甘いらしい。三つほど拾って帰る。

新穂高山北側の川の水はさすがに冷たい。

摩耶別山・摩耶山を通り抜け、摩耶山ロープウェイとケーブルで下山。

八月三十一日 火曜日

神戸電鉄鶴越駅より菊水山を目指す。ダムを越え登山口。急な尾根道を進む。標高は低いが角度がある。

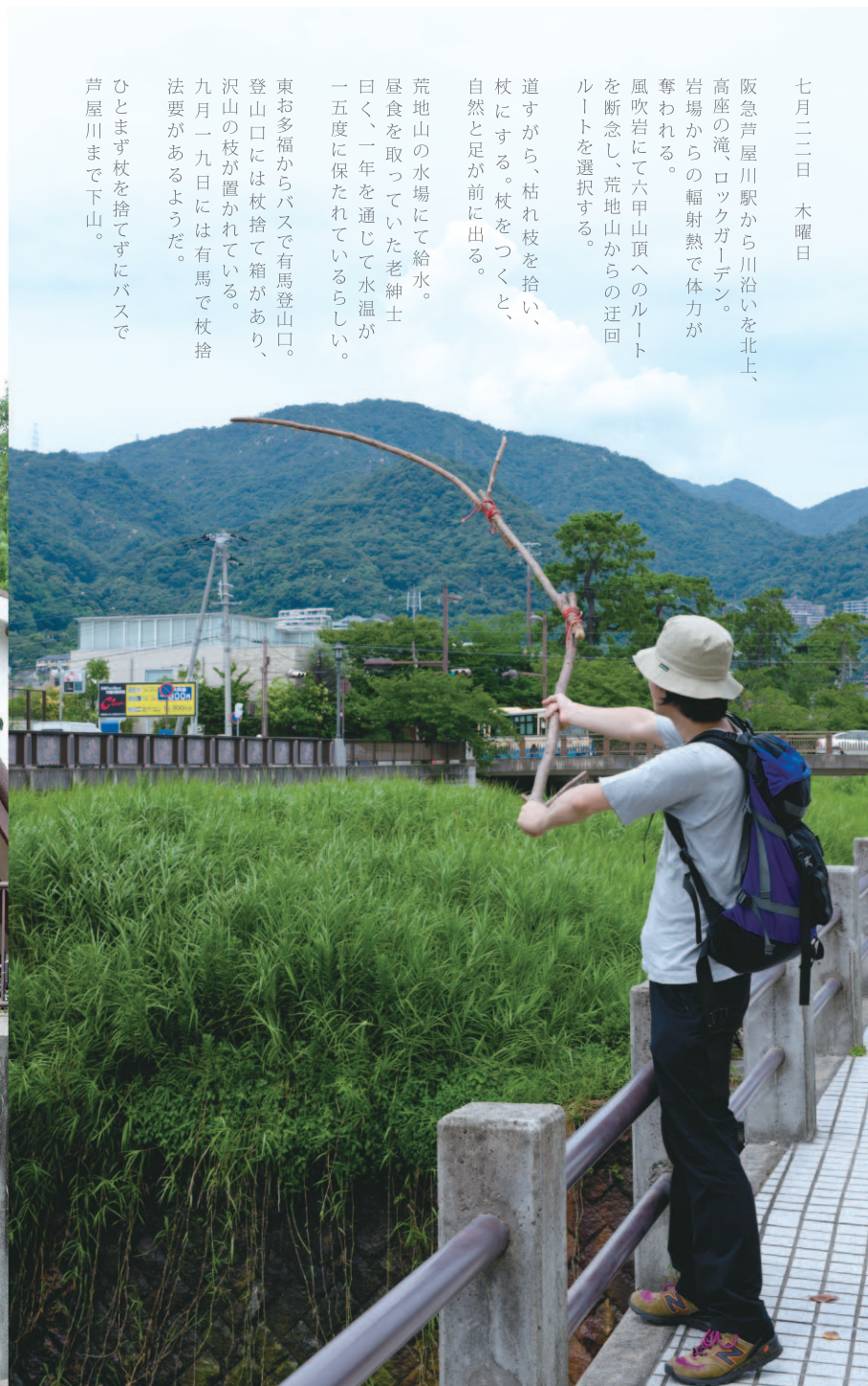
登るにつれ展望も開けてくる。

菊水山の山頂は四方の眺めが良く、遠く奈良・瀬戸内・四国までが見渡せる。山頂にいたご婦人方曰く、全国各地の名山よりも、六甲が好きだそうだ。良い山、と。

有馬街道まで岩続きの稜線を下り、吊り橋を越えたら再度急登。斜面は日陰で涼しく、さほど辛くない。

ほどなく鍋蓋山の山頂。

麓までは林道が続く。市が原で六甲全山縦走路からはずれ下山。布引貯水場、布引滝を経て新神戸駅。



六甲山登山路図

六甲山登山路図



「枝を拾い、杖として使用する」という身振りに目を向けた。

杖は山を登るうえで、欠かすことの出来ない道具である。

また枝を杖として用いることは、そのものの意味と価値を転用することでもある。

そこで山のなかで枝を拾い、いくつかの行為を実行してみた。

まずは枝をもって、麓からルートを示してみた。

